

子ども医療費助成に関する 国保の減額調整措置について

大河原 梅夫
(公明党)

問 国は、子ども医療費無料化を実施している市町村に対し、補助金の減額調整措置を続けてきたが、昨年12月、平成30年度からこの措置を廃止することを決定した。この見直しにより生じる財源については、他の少子化対策の拡充に充てることが国は求めているが、どのような支援策を考えているか。

答 減額調整措置の廃止により生じる財源の約50万円は、関係部署と連携を図り有効に活用していく。

○子どもの安心安全基金について

問 小・中学校の通学路の安全に関する要望を多く頂く。子どもたちの安全の為にはスピード感が必要と考えている中、他市の子どもの安心安全基金について話を聞いた。この基金は、子どもの

安全に特化したもので、これを活用することにより、支出を伴つ事業もスマートに進められる。また、ふるさと納税の使途としても選択できる。この基金のように子どもの安全に特化した財源を確保することで、対策が大きく進むのではないかと思つがどうか。

答 子どもたちが安心・安全に生活できる環境を整えるためには、基金の設置などにより財源を確保することは有効な手段の一つと認識している。この基金は、地域を支える新しい公共のあり方につながる取り組みで、財政面の負担軽減も期待できるものと考えている。基金の仕組みやノウハウを把握するため視察の実施を含め、今後調査研究していく。

○消防署のパワハラ問題について

問 小・中学校の通学路の安全に関する要望を多く頂く。子どもたちの安全の為にはスピード感が必要と考えている中、他市の子どもの安心安全基金について話を聞いた。この基金は、地域を支える新しい公共のあり方について

現在、鴻巣市主導で熱回収施設建設の名のもとに鴻巣市に余熱利用施設建設まで行われようとしている。これが本当に田市民のためになるのか疑問に感じている。

当初の合意書では、年間約1万9千メガワットの発電が可能な施設との説明はあったが、鴻巣市に温浴施設や温水プール建設の話はなかった。

○余熱利用施設の建設について

問 小・中学校の通学路の安全に関する要望を多く頂く。子どもたちの安全の為にはスピード感が必要と考えている中、他市の子どもの安心安全基金について話を聞いた。この基金は、地域を支える新しい公共のあり方について

問 小・中学校の通学路の安全に関する要望を多く頂く。子どもたちの安全の為にはスピード感が必要と考えている中、他市の子どもの安心安全基金について話を聞いた。この基金は、子どもの

鴻巣市への温浴施設建設について

石井直彦
(発言と行動する会)

市長は鴻巣市の熱回収施設建設予定地に余熱利用施設(温水プール、温浴施設)の建設を進める規約改正の合意書にサインした。

現在、鴻巣市主導で熱回収施設建設の名のもとに鴻巣市に余熱利用施設建設まで行われようとしている。これが本当に田市民のためになるのか疑問に感じている。

○行田市総合教育会議

問 国民保護法下でテロ等の武力攻撃事態から市民を守る本市の役割は、國、県及び関係機関と連携協力して市民への情報提供、避難誘導などを確かに迅速に行う。

問 2019年ラグビーW杯、20年東京五輪等の国際イベントが身近で開催され、テロへの脅威が高まるが、その対策は。

答 県は毎年市町村と国民保護実動訓練を実施し、本市も平成25年度に総合体育館及び総合公園で共同実施した。またW杯に向け県の図上演習に参加し、連携強化と職員のス

キルアップに努めている。北朝鮮の弾道ミサイルへの対策は。

問 住民避難訓練は行っているか。

答 現在は行っていないが、他市の状況も踏まえ検討していく。

○他の主な質問

○有害鳥獣被害(アライグマ)対策について

テロ等の武力攻撃事態から市民を守る対策

加藤誠一
(黎明21)

問 施設建設計画において、ごみ処理施設が熱回収施設へと表現が変わったが理由はなにか。

問 Jアラート(瞬時警報システム)の設置状況は。

答 平成24年度に本庁舎の受信機と防災行政無線を連携し、152の屋外スピーカーと小・中学校、公民館、保育園や民間幼稚園等114の個別受信機に情報伝達している。

問 8月29日の北朝鮮弾道ミサイル発射時、いくつかの自治体でJアラートの不具合が生じたが、本市の起動確認は万全か。

答 毎年3回起動確認を行つており、平成28年度に行つた3回目の確認では、防災行政無線に接続し試験放送も行つてし。

問 住民避難訓練は行っているか。

答 現在は行っていないが、他市の状況も踏まえ検討していく。

○他の主な質問

○有害鳥獣被害(アライ

グマ)対策について